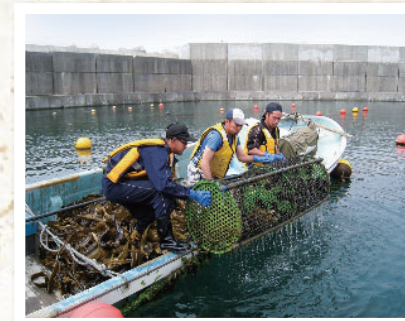
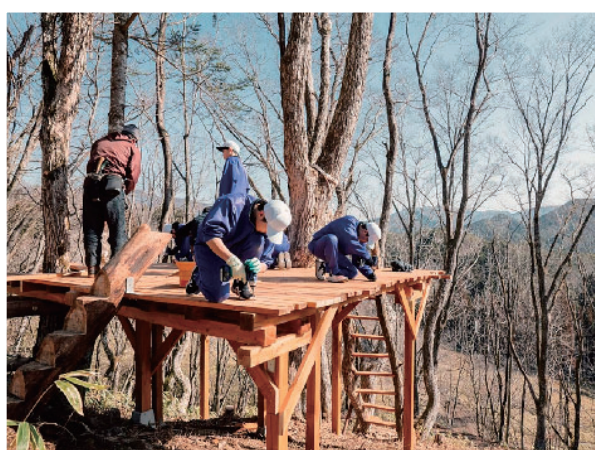


令和4年度 過疎地域持続的発展

優良事例表彰



編集後記

私が本表彰を通して1番感じたことは、地域を盛り上げようと熱意を持つ地域の人々の多さです。この熱意が伝わったからこそ、今回の優良事例表彰受賞となったのだと考えております。どこの地域でも熱意を持つ人はいるぞと今、これを読んで思った方も多いのではないのでしょうか。人口が減少し、地域住民が皆、顔なじみという過疎地域において、その熱意を同じ熱量で周りに広めていき、活動するということは距離感が近いがゆえにとっても難しいものであると私は考えております。

今回受賞となった団体のうち、私は長野県の「根羽村」と広島県北広島町の「100プロ」を現地で視察させていただきました。「根羽村」では移住コーディネーターが発信源となり、村・地域住民と協力しながら村を活性化させる人材を増やす形の取組を視察することができ、「100プロ」では地域住民の誰しもがリーダーとなれるフラット型の取組を通じて地域を活性化させる人材を増やす形といった「根羽村」とは違う形で地域を活性化させる取組を視察することができました。どちらも地域を盛り上げる熱意を存分に発揮できるようにアイデアを言い合える環境であり、かつ、そのアイデアに賛同し、共に行動してくれる地域住民や移住者などの外部人材の存在があるという点が共通点であると感じました。

とてもシンプルで当たり前のことを書いておりますが、この当たり前のことを当たり前にやれるということは実は大変難しいことであり、素晴らしいことなのだと私は考えております。

住んでいる地域を良くしたい、地域を活性化させたいと思う方は全国に大勢いらっしゃると思います。このパンフレットを通じて、今回表彰となった団体のアイデアを参考にいただき、その地域ならではの形に改良をする、又は新たなアイデアの基にするなど、地域を活発にさせるための一助となれば幸いです。

総務省地域力創造グループ過疎対策室 事務官 刈田 大貴（北海道遠軽町派遣）

総務省・一般社団法人全国過疎地域連盟

総務省地域力創造グループ過疎対策室

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2

TEL 03-5253-5536 FAX 03-5253-5537

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/

[c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm)

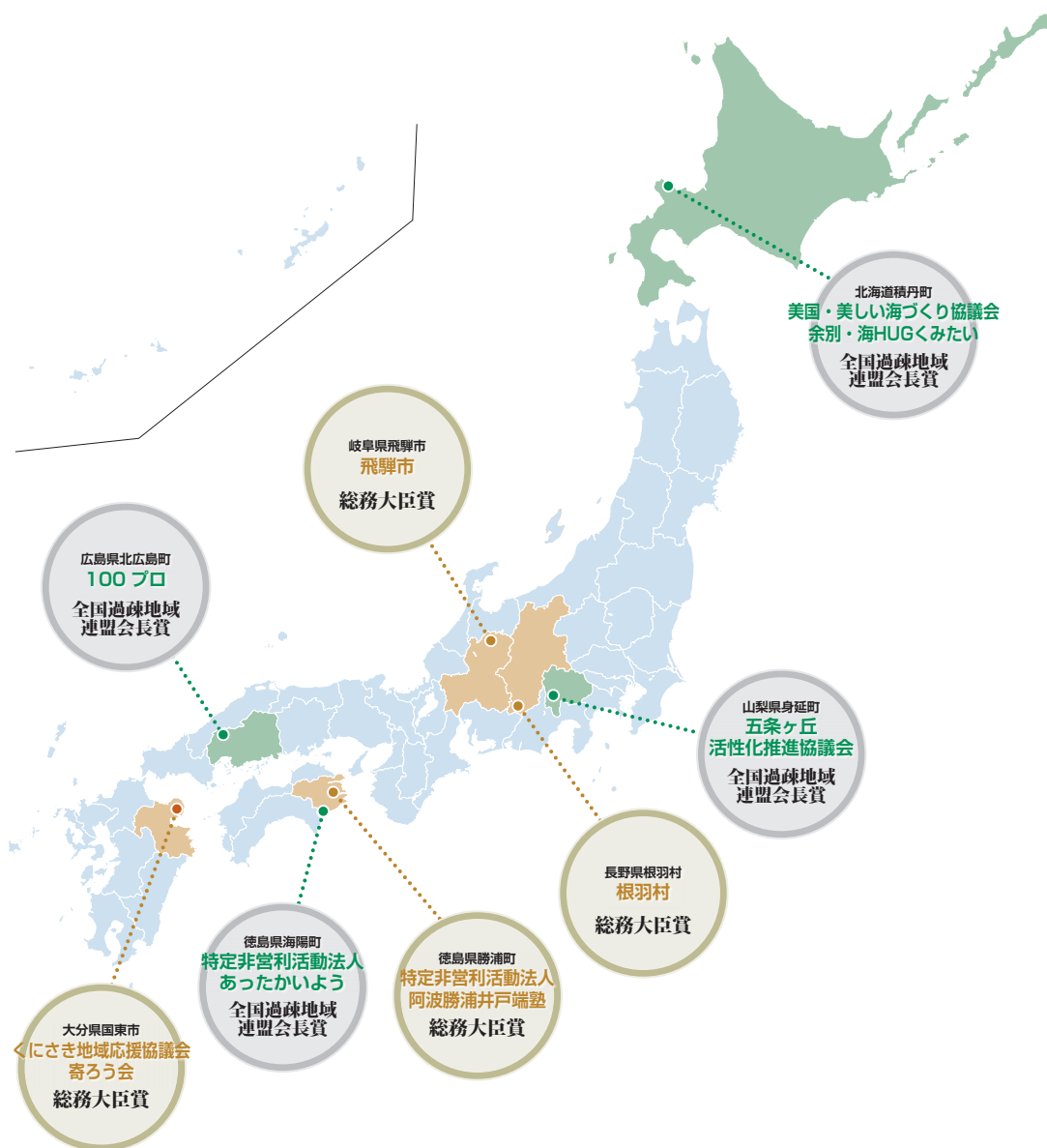
一般社団法人全国過疎地域連盟

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-5-4 加藤ビル3階

TEL 03-5244-5827 FAX 03-5244-5828

<http://www.kaso-net.or.jp/>

令和4年度 過疎地域持続的発展優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧

総務大臣賞

長野県
根羽村

ねばむら
根羽村
ねばー ギブアップ

岐阜県
飛騨市

ひだし
飛騨市
人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支えあう「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ！」

徳島県
勝浦町

特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾
あわかつうらい どばたじゅく
古代から未来へ、夢・想い・歴史文化をつなぐプロジェクト～恐竜化石とビッグひな祭りを活用した町づくり～

大分県
国東市

くにさき地域応援協議会 寄ろう会
よ
地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト“国東つながる暮らし”（海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし）

北海道
積丹町

びくに
美国・美しい海づくり協議会
よべつ
余別・海 HUG くみたい
資源が循環するまちづくり

山梨県
身延町

ごしょうが おか
五条ヶ丘活性化推進協議会
地域住民とともに作る「身延愛」の推進

広島県
北広島町

100 プロ
地域の児童数を 100 人に！

徳島県
海陽町

特定非営利活動法人あったかいよう
とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに

全国過疎地域連盟会長賞

過疎地域持続的発展 優良事例表彰制度の概要

今日、過疎地域では、人口減少、少子高齢化の進展など他の地域と比較して厳しい社会経済情勢が長期にわたり継続しており、地域社会を担う人材の確保、地域経済の活性化、情報化、交通機能の確保及び向上、医療提供体制の確保、教育環境の整備、集落の維持及び活性化、農地、森林等の適正な管理などが喫緊の課題となっています。

一方で、過疎地域は、食料、水及びエネルギーの安定的な供給、自然災害の発生の防止、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、多様な文化の継承、良好な景観の形成などの多面にわたる機能を有し、これらが発揮されることにより、国民の生活に豊かさや潤いを与え、国土の多様性を支えています。

こうした中で、過疎地域の課題の解決に資する動きを加速させ、これらの地域の自立に向けて、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源などを活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取組むことが極めて重要です。

本制度は、地域の持続的発展と風格の醸成を目指し、過疎地域において課題の解決に取り組み、創意工夫が図られている優良事例について表彰を行います。

令和4年度表彰委員会委員（敬称略）



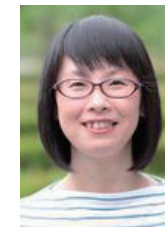
委員長 宮口 侗迪
早稲田大学
名誉教授



委員 指出一正
株式会社ソトコト・プラネット
代表取締役
「ソトコト」編集長



委員 國司 直也
法政大学
現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
教授



委員 田中 輝美
島根県立大学
地域政策学部
准教授
ローカルジャーナリスト



委員 平尾 由希
株式会社 FOODSNOW 代表取締役
フードコーディネーター

委員長講評

宮口 侗迪

この表彰制度も、今年度で33回目になります。この間かなり長く表彰委員を務めて参りましたが、毎年、候補団体を訪ねて素晴らしい活動に出会うことが、私にとっては本当に嬉しいひと時になっています。今年度も5人の委員が各地を訪ね、総務大臣賞4団体、過疎連盟会長賞4団体を選定させていただきました。

総務大臣賞に輝いた長野県根羽村は、全戸が森林組合員で林業の6次産業化を進めるとともに、移住コーディネーターが中心になって移住者の増加を実現し、過疎の奥地山村で人口増を実現しました。充実した住民の交流施設も設けられ、明るくて強いネットワークが形成されています。岐阜県飛騨市は、地元の困りごとの解決を、インターネットで募集して外部の人に手助けしてもらう「ヒダスケ」という制度を考案し、2年間で1000人が参加するという成果を上げています。旅費自弁で、地元の役に立ちたいという人が意外に多いということもすばらしい発見です。大分県国東市の「くにさき地域応援協議会寄ろう会」は、地域づくりを実践している12の団体が横につながり、WEBサイト「国東つながる暮らし」を立ち上げ、高齢者がスマホを使いこなしてサイトへの投稿率が上がるなど、新しいコミュニティの形成と評価できます。そして徳島県勝浦町のNPO法人井戸端塾は、ひな人形を全国から集めて飾る巨大なひな壇のひな祭りを30年以上継続し、これに恐竜化石を含む地層の発見で恐竜の里ウォークラリーの活動が加わり、さらに農園プロジェクトを始動するなど、多彩な活動に住民の底力を感じます。

過疎連盟会長賞に移ります。まず北海道積丹町の美国・

美しい海づくり協議会と余別・海HUGくみたいは、廃棄物であったウニの殻を肥料として再生し、ウニの餌となる昆布の養殖や藻場の育成に成功し、積丹ウニの安定供給に貢献するとともにその技術を公開し、大きな評価を得ました。山梨県身延町の五条ヶ丘活性化推進協議会の活動は、アニメ「ゆるキャン△」の舞台となったことを地域活性化に活用しようと、看板やマップの制作、撮影場所の廃校舎でのキャンプの受け入れ、多くのイベントでの地域食材の活用など、チャンスを活かした新鮮な活動と言えます。広島県北広島町の100プロは、地域の子供を100人に増やすことを掲げて発足したグループですが、自由に楽しいプロジェクトを立ち上げて地域の魅力を高め、緩やかなネットワークで子育て世代の移住・定住を増やしつつあることに新しい空気を感じます。最後に徳島県海陽町のNPO法人あったかいようは、イベントやセミナーなどの開催による賑わいづくり、高校生や子供たちの人材育成、お試し住宅などの移住者支援の3つを柱に、情報共有はアプリで無理なく行うなど、みんなが孤立しにくい体制づくりに成功しつつあります。

過疎地域は減少を嘆いていてもしょうがありません。まず今いる人たちがいい関係を築き、それに外部の人や移住者がいい形で絡み合っていけば、それこそが地域のパワーアップなのだと考えていただきたいと思います。人と人の新たなつながりこそパワーのもとです。本年度もそのような表彰団体に多く出会ったことを喜び、敬意を表しつつ講評とさせていただきます。

都道府県からの推薦

表彰委員による書類審査

- 地域の持続的発展・活性化について、先駆的・モデル的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 相当期間活動が継続し、その効果が既に定着していると考えられるか？

表彰委員による現地調査

表彰委員会による優良事例の決定

表彰式

日時：令和4年10月20日（木）13時20分
場所：市民会館シアーズホーム夢ホール
（全国過疎問題シンポジウム全体会場）
熊本県熊本市中央区桜町1番3号

総務大臣賞

ねばむら
長野県根羽村

ねばむら 根羽村

ねばー ギブアップ



村の子供達と外部人材との協働により始まった「ハッピーマウンテン」づくり。外から見た村の魅力発信と、子供達の考えた新たな魅力づくりに地域が一体となって取り組んでいる。

◆事例の概要

根羽村の人口は昭和30年の3,282人をピークに減少の一途をたどり、令和4年1月には885人まで減少し、この解決の一助とするため外部人材の積極的な登用等による新たな地域づくりが始まった。

令和元年には地域おこし企業人制度（当時）の活用をきっかけに、派遣された社員が村へ移住し、外部から村の魅力・価値の再発見と情報発信が進められた。また、村の中間支援組織の立ち上げ運営に関することとなり、一過性ではない外部人材との協働の大きな流れができた。

少子高齢化・地域産業の持続・地域の担い手確保といった中山間地では避けられない課題に取り組み、村への移住者や外部人材の生活拠点となる「トライアルハウス」を設けた取組等の多面的で先進的な活動が、関係人口の増加・移住施策の推進ともつながり、令和3年から令和4年にかけての人口増という成果を上げている。引き続き官民協働、流域連携による地域づくりが見込まれる。



愛知教育大学と協働で開発した「木のおもちゃ」の体験イベント。

◆評価のポイント

根羽村は長野県の最南端にあり、愛知側の矢作川の流域になる。村の面積の92%が森林で、全戸が根羽村森林組合員となって林業振興を図っている。森林組合は建築士・工務店と直結したトータル林業を展開し、各種の認証の取得、スギ・ヒノキのブランド化、木のおもちゃや木製布の制作・販売等6次産業化にも努力している。外部雇用を含めると50人近くが働く健全な企業といえる。なお組合長は村長であり、村と一体化した組織ともいえる。

総務省の地域おこし企業人（現地域活性化起業人）制度を活用して採用した男性が極めて有能で、任期を終えてからは移住コーディネーターとして、移住者の増加に大きく貢献している。本人自身が村という小さな地域社会のいい人間関係を求めて移住したことが強みである。加えてトライアルハウスという移住準備軍のためのシェアハウスの存在もあり、令和2年には社会増となり、令和4年1月までの1年間には10人の人口増を記録した。

移住コーディネーターからのSNSによる連絡でママさんワークショップなども行われ、様々な意見や要望が出るなど、活発な住民の交流が生まれている。住民が集まりやすい施設として、民家をリフォームした「くりや」があり、イベントの開催や放課後子供教室の場に、さらにワーケーションの場も用意されている。移住者を迎えるというソフト・ハード両面にわたる村の施策が想定外の人口増を生んでいると言える。職場の多くは人手不足で、産業振興施設ネバーランドなど就職先に困る状況にないのも強みである。

児童数の減少の中で村は、令和2年に小中学校を義務教育学校根羽学園として統合した。今は親子留学制度で愛知県安城市から3家庭4名が加わり、5年から教科担任の授業が行われるなど、少数精鋭の教育が行われている。農事組合法人杉っ子は、10人の農家の女性の集まりで、伝統食を中心に食品の加工販売と配食サービスを行っている。

多くの活動が村長のリーダーシップのもと横の連携を密に展開しており、小さな過疎山村の都市にはない価値と活気を感じることができた。強く評価したい。



外部人材登用の拠点となる「トライアルハウス」。個室6部屋と共同ダイニング等を備え、移住者の受入にもつながっている。



木の繊維を利用して作られた「木の布」。地域資源を活かした新たな産業とできるよう期待される。



外部人材を巻き込んで、官民協働、多世代が参加する地域づくりワークショップが新たに始まった。

DATA

長野県 根羽村（ねばむら）

団体名 ▶ 長野県根羽村

所在地 ▶ 〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村 2131 番地 1

連絡先 ▶ TEL：0265-49-2111 FAX：0265-49-2277

E-mail：soumu4102@nebamura.jp

URL：http://www.nebamura.jp/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 中央自動車道 飯田山本 IC 下車 国道 153 号線を愛知県方面へ車で 40 分

鉄 道 ▶ JR 飯田線 飯田駅から車で 1 時間

● 国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
根羽村	3,059	1,773	1,380	1,129	970	852

● 人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
根羽村	-72.1	-51.9	-38.3	-24.5	-12.2

（単位：人）

● 高齢者・若年者比率（R2 年）（単位：％）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
根羽村	51.48	7.08



総務大臣賞

ひだし
岐阜県飛騨市

ひだし 飛騨市

人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支えあう
「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ！」



飛騨市内の様々な困りごとをプログラム化し、全国の皆さんの力を借りて、交流をしながら解決する支え合いの仕組み。

◆事例の概要

「ヒダスケ！」は、困りごとや地域課題を交流の資源として捉え、人と人とのつながりと支え合いを構築する新しい活動で、地域外の方との接点をつくるために、観光や移住とは違う切り口から着想をした活動である。

市民の困りごとや地域の課題を解決するプログラムを住民が作成し、プログラム主催者が「ヌシ」、参加者が「ヒダスケさん」と呼ばれている。参加者には参加後「オカエシ」として主催者の創意工夫で用意する野菜等のお礼や電子地域通貨「さるぼほコイン」を用意するなど、令和2年4月の運用開始から100以上のプログラムが生まれ、延べ1,000人を超える参加者があり、地域経済の一助となっている。

平成29年から「飛騨市ファンクラブ」を設立し、全国の10,000人を超える会員と交流を深めるとともに、ウェブ上でマッチングを可能にすることで、コロナ禍であっても地域や年齢の垣根を超えて、幅広く参加者を募集することができ、主催者・参加者にとって満足度の高い取組となっている。



お互い様の精神で、参加者には、主催者よりオカエシを手渡す。

◆評価のポイント

飛騨市は厳しい人口減少が続く中で、それを止めるために無理な施策を展開するよりも、地域外との交流をより重要視すべきと判断し、映画「君の名は」のファンが訪れる現象も踏まえて、飛騨市ファンクラブを平成29年1月に設立した。東京・大阪・岐阜さらに飛騨市で、市長などが参加する気軽なパーティのファンのつどいを開催し、会員はまもなく1万人に達する。

ファンクラブ会員との交流の中で地域に貢献したいという会員が少なからずいることに気づいた市職員の議論から、様々な困りごとの解決のために外部の人の力を借りるヒダスケが発案された。インターネットで事務局が、募集主（ヌシ）とその困りごと（集落の景観保全作業、農作物の収穫など）を配信し、それを手伝う意思のある人が参加者（ヒダスケ）となって現地に行くという仕組みである。令和2年4月にスタートし、2年間で107プログラムが実行され、延べ1038人がヒダスケとなって参加した。参加者は市からの地域通貨500円分とヌシなりのお礼（食事や野菜など）をもらう。旅費等は自費である。

農作物を貯蔵する板づくりの倉がある種蔵集落では、石垣の修復、ミョウガ畑の手入れなどに多数のヒダスケが参加、岐阜大の教授と学生たちも参加した。いまは板倉の宿に五右衛門風呂をつくっている。ミニトマト農園では収穫期には随時お手伝いを募集して、連日の参加がある。飛騨みやがわ考古民俗館では展示の縄文時代に作られた石棒の撮影に多くのヒダスケが機材持参で参加している。企業定年後に移住した人の中には、ヒダスケとして参加しているうちに、周りとの会話からヌシとして納屋の修復を行った例も見られる。

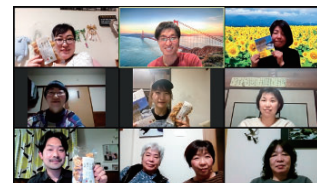
なお、二日連続して異なるヒダスケに参加する場合に、ファンクラブの会員であれば1000円の地域通貨がもらえるという「お泊りヒダスケ」という取組みも開始された。このようにヒダスケが短期間に活況を呈したことは担当者の予想を超えることであったが、ヒダスケには地元の人も参加するのでそこで交流の輪が広がり、多彩な行動が派生したことも価値がある。自己有用感が都会人の求めるものであったことの発見の意義は大きい。



「岐阜の宝もの」にも選ばれた日本の原風景。高齢化により景観を維持できなくなった石積みヒダスケで延べ189人が参加し復旧した。



一人暮らしの高齢者にとって、自宅の障子張りも一苦労。親子で参加し、子どもでも地域に貢献できることを実感することができる。



コロナ禍で直接参加することができないため、オンラインを活用し地元特産品「寒干し大根」のアンバサダーを募りPRのお手伝い。

DATA

岐阜県 飛騨市（ひだし）

団体名▶飛騨市
所在地▶〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号
連絡先▶TEL：0577-73-2111 FAX：0577-73-7077
E-mail：sougouseisaku@city.hida.lg.jp
URL：https://www.city.hida.gifu.jp/

【交通のご案内】

自動車▶東海環状自動車道 飛騨清見ICより約30分
中部縦貫自動車道 高山ICより約15分
国道41号 高山駅より約1時間50分 / 高山市街地より約20分
鉄道▶高山本線特急ワイドビューひだを利用
名古屋から飛騨古川まで約2時間40分
高山から飛騨古川まで約1時間15分
高山本線普通列車を利用
飛騨高山から飛騨古川まで約15分
猪谷から飛騨古川まで約50分
飛行機▶東京から来られる場合
羽田空港から高山空港まで約1時間
高山空港からレンタカーで1時間30分

●国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
飛騨市	49,391	38,384	30,421	26,732	24,696	22,538

（単位：人）

●人口増減率

（単位：％）

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
飛騨市	-54.4	-41.3	-25.9	-15.7	-8.7

●高齢者・若年者比率（R2年）

（単位：％）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
飛騨市	40.4	8.8



特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾

古代から未来へ、夢・想い・歴史文化をつなぐプロジェクト
～恐竜化石とビッグひな祭りを活用した町づくり～

「ビッグひな祭り」会場中央に、大ピラミッド状の壮大なスケールで展示されているひな壇（25段×4面のピラミッド型、高さ8m）

◆事例の概要

人形文化の伝承と町おこしを目的に、30年以上にわたり毎年「ビッグひな祭り」を開催している。全国から家庭で不要になったひな人形をこれまでに30万回回収し、供養して飾り、展示するこの活動は、近年取り上げられているサステナブルな取組の先駆けであり、3万人もの観光客が町を訪れている。開催期間中に当団体が発端となって、地元他団体などとイベントを実施するなど、町全体を巻き込んで地域活性化に大きく寄与している。

また、平成6年に町内で発見された県内唯一の地域資源「恐竜化石」を用いて、恐竜情報や手作りの恐竜オブジェを飾る「恐竜の里」の整備や、県立博物館等との連携による専門知識を活かしたイベント活動を行うなどの町おこしも年々その規模が大きくなっており、勝浦＝恐竜のイメージへの取組が着実に進んでいる。

30年以上にわたり町の地域資源を活かした魅力の創出に貢献をしているとともに、今後取組が次世代へ繋がるように自主的・主体的な活動を行っている。



コロナ禍で中止となったイベントチラシを再利用し、2mの「おひな様」を製作・展示している。

◆評価のポイント

春先になり多くのひな人形が段々に飾られる「ビッグひな祭り」の発端は、勝浦町が直面した昭和56年の大寒波にさかのぼる。町特産のみかんに壊滅的な被害が発生し、「このままではまちが消滅する」と危機感を抱いた町役場の若手が勉強会を始め、勝浦町から全国に発信できるものにと、季節行事のひな祭りに目をつけた。家庭で不要となったひな人形を全国から集めて、百段のひな壇をメインに華麗に飾る「グローバルビッグひな祭り」は毎年趣向を凝らしながら35年近く継続し、今では3万体を会場に飾るまでになった。

飾りびなの取組は、町内各所だけでなく、「全国勝浦ネットワーク」として友好都市協定を結ぶ千葉県勝浦市や和歌山県那智勝浦町にも、メンバーが飾り付けの指導に訪問し、イベントとして定着している。また、阪神淡路大震災をきっかけに被災地に人形を贈ったり、リオデジャネイロ・オリンピックでは、現地の交流拠点にひな壇を飾り、現地の人たちに人形の里親になってもらう、まさに「グローバル」に人形がつながり交流も生まれている。

運営母体も、平成3年に町の活性化グループ「阿波勝浦井戸端塾」が引き継ぎ、平成14年には法人格を取得しNPO法人となり、町内の木工所跡地を人形文化交流館に仕立てて活動拠点を築いた。その隣には道の駅ひなの里かつうらが整備され、その指定管理者として運営にも関わり、地域内外のさまざまな主体が集う場にも成長している。

勝浦町では、白亜紀前期の恐竜「イグアノドン」の歯の化石が四国で初めて発見され、さらに、平成30年に恐竜化石を含む地層（ボンベッド）が発見されたことから、国内最古級の地層が分布し、「日本一化石が出てくる町」として今後の期待が高まっている。井戸端塾でも、発掘現場近くに公園を整備し、「恐竜の里」として開放したり、化石発掘体験やジオラマづくり体験なども提供する。

井戸端塾は、「グローバルビッグひな祭り」を起点に町の知名度を高め、地元密着の資源である恐竜化石という新たなコンテンツを得て、地域資源の価値も高めてきた。メンバーの減少と高齢化が課題だが、近隣の大学生や県職員のボランティア参加も積極的に受け入れ、前向きに挑戦を続ける。どの活動にも時代の変化も捉え常に新たな発想を追及する姿勢が貫かれ、次世代に繋げる今後の展開を大いに期待したい。



これまで世界30カ国以上にひな人形を寄贈。またリオ五輪や東京五輪でも現地にひな壇を設置し文化交流に貢献している。



自然と融合した「恐竜の里づくり」に取り組むとともに、平成30年に発見された日本最古級の「ボンベッド」の徳島県が行う化石の発掘作業に協力している。



平成13年度から「恐竜の里ウォークラリー」を毎年開催し、子供から大人まで多くの参加者と交流を図っている。

DATA

徳島県 勝浦町（かつうらちょう）

団体名 ▶ NPO 法人阿波勝浦井戸端塾
所在地 ▶ 〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35番地1
連絡先 ▶ TEL：0885-42-4334 FAX：0885-42-4334
URL：https://bighinamaturi.jp/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 徳島ICから国道11号、55号を南下、勝浦川橋南詰交差点を右折し県道16号線を進む。（徳島市から約30分）
飛行機 ▶ 徳島阿波踊り空港から空港バスでJR徳島駅を経由し徳島バス勝浦線「勝浦町役場前」下車（JR徳島駅から約60分）



●国勢調査人口

(単位：人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
勝浦町	9,646	7,811	6,736	5,765	5,301	4,837

●人口増減率

(単位：%)

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
勝浦町	-49.9	-38.1	-28.2	-16.1	-8.8

●高齢者・若年者比率（R2年）(単位：%)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
勝浦町	44.0	10.6

総務大臣賞

くにさき地域応援協議会 寄ろう会

地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」（海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし）



地域住民が自ら情報発信していくため、世代間交流を含めたスマホ教室を定期的に開催している。楽しみながら学べる環境を整備したことで、地域の活動に参画するきっかけにつながっている。

◆事例の概要

国東市では住民同士の支え合い活動（居場所づくりや生活支援）を基幹事業に、生活圏毎で地域づくり支え合い活動を住民主体で進めており、平成 30 年 3 月より市内全域の情報共有を目的に本団体が設立された。

地域住民が主体となり、スマホ教室など情報発信を楽しみながら学べる環境づくりを創出し、スマホ教室がきっかけとなり、これまで地域づくりに消極的な地域も積極的に参画するよう変化してきている。また、『誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化』の実現に向けて、SNS インスタグラムを活用した地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」を制作・公開している。

地域づくり支え合い活動の可視化によって、現在は、いつまでも誰もが安心して生活が出来るよう、高齢・過疎化が進む中でスマホ取扱いデジタル対策に向けて買物支援や移動支援、通院支援、防災などで SNS 等を含めた情報の一括管理が行えるシステムづくりについても検討をしており、多方面での効果が期待される取組を行っている。



共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」トップページ

取組の詳細は、下記をご参照ください。

WEB サイト：



紹介映像：



◆評価のポイント

大分県国東市の「くにさき地域応援協議会寄ろう会」は平成 28 年から平成 29 年の準備期間を経て、平成 30 年に本格的にスタートした団体である。「よろう会」は国東市の方言で「あつまろう」の意味。その主な目的は、国東市で地域づくりを実践している 12 の団体が集まり、国東市全域で地域づくりを応援していこうというものだ。また、「くにさき地域応援協議会寄ろう会」の進行とともに、令和 2 年にはこれまで地域おこし協力隊であった人や、積極的に地域づくりを支援していた人々による「地域支援サポーター」が制度として登場し、若い世代が混じり、各地域の活動の展開と横のつながりを広げていく効果がもたらされるようになった。

地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」は、このような立体的な関係性のなかからニーズが見つけられ、2021 年 4 月に誕生したローカルメディアである。大きな狙いとしては「情報共有と情報発信」「モチベーションの維持」「自主財源の確保」「移住促進」等が挙げられるが、現地を訪れて、特に要点である「高齢者にインターネット、スマートフォンに親しんでもらう」が非常に効果を表していると感じた。

竹田津地区公民館で行われていた「スマホ教室」では、男女 20 名程の地域の高齢者の方がスマートフォンを片手に熱心に操作を学び、また、互いに教え合っている姿が印象的だった。「孫とラインができるのが楽しみ」「娘に教えてもらおうのがよいコミュニケーション」「画像や映像で畑や田んぼの現在の様子を共有できて便利」などといった意見と成果が聞け、高齢者の地域の日常に SNS やデジタルが自然に溶け込んでいた。特にInstagramの利用率と投稿率の頻度には素晴らしいものがある。日々、それぞれの地域のいまを、穏やかに伝えてくれ、すべて地元の高齢者の方を中心とした、土地を愛するメッセージにあふれている。これ以上の良質で本質的な発信はなかなかない。国が進めているデジタル田園都市国家構想のひとつの自主的なお手本と言ってもいいだろう。「誰もが地域で幸せに暮らせる」という、先のウェルビーイングまで見据えられているローカルデザインだと思う。

「国東つながる暮らし」は各種イベントによる関係人口の拡大や EC サイトでの地域経済の向上の仕組みも実装され、今後のウィズコロナの状況もよく勘案されている。国東のそれぞれの地域の自主性と自律性がメディアから立ち起こり、より協力的なコミュニティへと発展していくこの伸びやかさに、今後も期待している。



寄ろう会では、各団体の代表が集まり、情報共有・課題等を協議している。



共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」ポスター



支え合い活動（居場所づくりから誕生した生活支援）

DATA

大分県 国東市（くにさき）

団体名 ▶ くにさき地域応援協議会寄ろう会

所在地 ▶ 〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川 149 番地

連絡先 ▶ TEL：0978-72-5189（国東市高齢者支援課）

FAX：0978-72-5171

E-mail：koureisien@city.kunisaki.lg.jp

URL：https://yorouue.com/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 大分空港道路（終点：安岐交点）から約 20 分

鉄 道 ▶ JR 杵築駅から車で約 40 分。または杵築駅バスターミナルより大分交通「国東」行きに乗り約 1 時間。

飛行機 ▶ 大分空港から約 15 分

●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
国東市	58,786	40,504	35,425	32,002	28,647	26,232

●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
国東市	-55.4	-35.2	-26.0	-18.0	-8.4

（単位：人）

●高齢者・若年者比率（R2 年）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
国東市	43.1%	9.5%

（単位：％）



アメリカ・美しい海づくり協議会
余別・海 HUG くみたい
資源が循環するまちづくり



将来まで持続できるウニの生育環境を守り、育てる取組として、海中肥育による生産にも力を入れている。

◆事例の概要

積丹町は基幹産業である漁業を中心に発展してきた町であり、観光客入込数は令和元年度に120万人を超え、毎年6月から8月のウニ漁業の期間に集中している。

この期間に訪れる観光客の多くが高級ブランドとして知られている「積丹ウニ」を求めて町内の飲食店を訪れており、「積丹ウニ」の人気や需要に応えるためには、安定的な生産や供給体制の確立を図る必要があった。このため、浅海漁業者で組織した2つの活動団体が、平成27年からウニ殻を肥料としたコンブの養殖や藻場造成を行うとともに、生産したコンブをウニの餌料にする資源循環の取組を進めており、漁業生産等の経済的効果に加えて、生態系保全機能と環境保全機能が期待されている。

これまで廃棄物として扱われてきたウニ殻から新たな価値を創出するなど、地域が一体となって循環型社会の実現に向けて取り組むことにより、過疎地域の持続的発展に寄与している。



積丹町マスコットキャラクター「うにどん」と一緒に。

◆評価のポイント

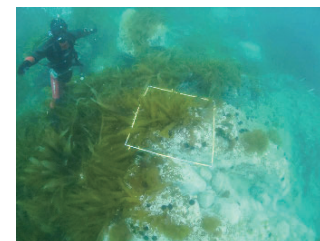
北海道積丹町は日本海に突き出た「積丹半島」の最先端に位置する町であり、漁業、とりわけウニ漁業を基幹産業として発展してきた地域で、毎年6月～8月のウニ漁の期間には、120万人を超える観光客が集中して訪れる。

廃棄物として処分されているウニの殻を「ウニ殻肥料」として再生し、ウニの餌料となる昆布の養殖や、藻場の育成などに有効活用する資源循環の取組は、北海道職員出身で、地域おこし協力隊を経て、現在は集落支援員の男性が中心となって、「アメリカ・美しい海づくり協議会」「余別・海 HUG くみたい」の漁業者と共に進めているもので、積丹ウニの安定生産、安定供給に多大に貢献していると共に、その技術を公開し、磯焼けに悩む全国の漁場の手本にもなっている。

また、地域の事業者が、ウニの餌となるホソメコンブを羊の飼料として使用することで上質な羊肉を生産するなど、畜産業や他産業との連携により、新たな産業創出も期待されている。

今後は、ホソメコンブ養殖の副産物である海藻「ダルス」の6次産業化商品開発や、ウニの最盛期以外でも人を呼ぶことができる町づくり、また、現在は人力で行われているウニ殻肥料製造に関しては、ウニ殻の集積から製造プラントでの製造などの事業化の実現に大いに期待をしたい。

また、積丹町のボタニカルをふんだんに取り入れたクラフトジンの事業者をはじめ、地域おこし協力隊が中心となったニシン番屋を再利用する取組、積丹町地域活性化協議会など、積丹町にはウニだけではなく、魅力的な人材や地域資源が溢れている。「アメリカ・美しい海づくり協議会」「余別・海 HUG くみたい」には、これらの積丹町の宝と、今以上に積極的に連携をとりながら、積丹町の理念「自然、人、産業の和で築くまち」づくりに寄与して行くことを期待したい。



磯焼け漁場でホソメコンブ群が再生されたことにより、ウニ殻の肥料効果が検証された。



天然コブで成型したウニ殻肥料を自作し試験を実施。経済性や効率性に優れ、何より漁業者自らの手による効果を実感。



養殖ホソメコンブは畜産肥料としても利用。漁業生産から生態系保全にも配慮した循環型再生の取組をリアルに実践中。

DATA

北海道 積丹町（しやこたんちよう）

- 団体名**▶①アメリカ・美しい海づくり協議会
②余別・海 HUG くみたい
- 所在地**▶①〒046-0201 積丹郡積丹町大字美国町字船淵 1546-1 番地
②〒046-0322 積丹郡積丹町大字余別町 663 番地
- 連絡先**▶TEL：0135-44-3382 FAX：0135-44-2125
E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp
- 【交通のご案内】**
自動車▶後志自動車道 余市 IC より約30分
札幌市より国道5号・229号で約2時間
鉄 道▶函館本線普通列車を利用
小樽駅で下車後、バス利用で約1時間20分



●国勢調査人口 (単位：人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
積丹町	8,070	4,910	3,149	2,516	2,115	1,831

●人口増減率 (単位：%)

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
積丹町	-77.3	-62.7	-41.9	-27.2	-13.4

●高齢者・若年者比率 (R2年) (単位：%)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
積丹町	46.9	8.1

ごじょうがおか 五条ヶ丘活性化推進協議会

地域住民とともに作る「身延愛」の推進



閉校で使われなくなった校庭でキャンプイベントを実施。地域資源の利活用により、地域特性を踏まえた独自の取り組みを展開している。

◆事例の概要

五条ヶ丘活性化推進協議会は人口減少や少子高齢化により、町内にある複数の小中学校が統合により廃校となったこと、また、地域にあった多くの商店等が閉店して地域の活力が大きく低下していることなどを踏まえ、地元の観光資源や施設等を活用した取組を行い、地域活性化を図ることを目的に設立された団体である。

廃校舎を活用した校庭キャンプの実施や地域の情報を載せた手作り地図の配布など、地元の資源や施設を活用した取組を行っており、活動により全国からの訪問者が訪れるなかで地域の住民におもてなしの心を訴え、それが評価されていくことで地域住民に自信と誇りが醸成されている。

行政が運営を主導するのではなく、運営の全てを協議会が担っており、地域活動を通じて地域リーダーの育成や発掘を行い、持続可能なまちづくりに寄与し、まちを担う人材の確保、人の流れの創出による経済の活性化等、地域活性化につながる先進的な取組を行っている。



「過疎の地域だからこそ、私たちが何とかしなければ」との思いで、20代から40代の約20名が積極的に活動を行っている。

◆評価のポイント

山梨県の南部に位置する身延町は、「あけぼの大豆」に代表される伝統食材や「西嶋和紙」などの産業が古くから伝承されてきた地域であると共に、仏教の荘厳な雰囲気や、下部温泉郷を有する湯治場としての顔も併せ持つ。

少子高齢化や過疎化により、町内の複数の小中学校の統廃合が進み、地域の活力の低下が町の課題であった折に、廃校になった旧身延町立下部小中学校を拠点に、高校生たちのキャンプ活動を描いた漫画原作のアニメ「ゆるキャン△」の舞台になったことをきっかけに、旧下部中学校の卒業生を中心に「五条ヶ丘活性化推進協議会」を立ち上げ、モデル地巡り（いわゆる聖地巡礼）をする旅行者に対して、アニメの場面を掲載した案内看板の設置や手作りマップの配布など、地域住民を巻き込んだ様々なおもてなし活動を行いながら、「ゆるキャン△」ファンが「身延町のファン」になるような魅力的な取り組みで、地域、観光振興に寄与している。

驚くべきは、行政に頼らない自立したイベントプログラムの数と充実した内容で、地域住民を巻き込んだ「ゆるキャン△」のドラマ、映画などへの撮影協力では、廃校になった下部中学校にロケセットがそのまま残されており、校庭にテントを張ってキャンプができるといった廃校活用の取組は、アニメファン垂涎のイベントとなっている。また、アニメの制作会社と協力しながらの「ゆるキャン△」関連イベントが充実している一方で、取組はアニメの人気活用だけにとどまらない。

地元で大切に守られてきた食材「あけぼの大豆」の枝豆が一番美味しい時期に、直売会などと連携したイベントを創出したり、道の駅にキャンプ場を整備したりと、身延町の他の地域資源とも密接に連携し、地域住民と共に作り上げる活動は、コロナ禍にあっても年間15～20件の実績を誇る。

小説や映画の舞台となった地域が、作品を地域おこしに活用している事例全国各地にあるが、住民が置き去りにされている取組も多い。五条ヶ丘活性化推進協議会の取組は、地域側から発信した題材が連載中の原作に登場するなど、作品人気を利用するだけではなく、これまでの取組で築き上げてきた、地域住民や制作会社との信頼関係を示すような相互の好循環でも生み出している。取組を「ゆるキャン△」人気だけに依存せず、地域に今ある資源をフル活用しながら、未来を見据えた地域ビジネスに昇華させている点においても、地域への想いに溢れた稀有な事例であり、他地域の手本となると高く評価したい。



アニメ「ゆるキャン△」をきっかけに多くのファンが訪れるようになった。地域の「おもてなし」環境充実のため、看板の設置（22ヶ所）や地図の配布（約5.2万枚・16版）を行っている。



参加者と地域をつなげるため、「みのぶ」の魅力を発信している。イベントへの地元飲食店等の出店、SNSやプレゼント会等を通じ、地元の特産品等を積極的にPRしている。



これまでに校庭キャンプやアニメ「ゆるキャン△」キャラクターの誕生日会等のイベント（約30回）を実施し、過疎地域への更なる誘客促進を目指している。

DATA

山梨県 身延町（みのぶちよう）

団体名 ▶ 五条ヶ丘活性化推進協議会
所在地 ▶ 〒409-2936 山梨県南巨摩郡身延町常葉 439 常幸院内
連絡先 ▶ TEL：090-4361-6499
E-mail：5jogaoka@gmail.com
URL：https://www.facebook.com/5jogaoka

【交通のご案内】

自動車 ▶ 中部横断自動車道 下部温泉早川 IC より約 10 分
鉄 道 ▶ JR 中央本線（特急）新宿駅から甲府駅約 90 分
JR 身延線 甲府駅から甲斐常葉駅約 70 分

●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
身延町	35,616	23,222	18,021	14,462	12,669	10,663

●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
身延町	-70.1	-54.1	-40.8	-26.3	-15.8

（単位：人）

●高齢者・若年者比率（R2 年）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
身延町	47.5	8.7

（単位：％）



山梨県身延町

100 プロ

地域の児童数を 100 人に！



正直、何をすれば良いかなんて分からないけれど、子どもたちの未来のために僕らは動き始めます！！（写真：自然体験・ドラム缶風呂）

◆事例の概要

平成 30 年に新庄小学校の保護者であった 3 人が、このままでは小学校の児童数が減少し、3 年後にはすべての学級が複式になるという状況を防ぐため、10 年後の児童数を 100 人に増やすことを目的に立ち上げたのが本団体である。

現在は旧大朝町全体の児童数を増やす活動に広がっており、若年層から高齢者までの幅広いメンバー約 60 人が参加する。団体内に役職は設けず、やってみたい人が「この指とまれ」方式にてチームを組みながら、自由に活動を行っている。

「魅力ある地域、魅力ある教育、住む場所」というテーマを基に情報発信し、この地域ならではの「人の好さ・自然・風景」を活かしながら、自然体験プロジェクト・移住者を孤独にさせないための女子会プロジェクト・カレンダー&写真展プロジェクトなど、子育て世代をはじめ若者の移住・定住者を増やす活動を行っており、地域団体や学校との連携、交流人口・関係人口の創出に取り組んでいる。



地域の魅力を発信する（写真：写真展&カレンダープロジェクト）

◆評価のポイント

100 プロとは、地域の子どもの数を 100 人に増やすことを目的としたプロジェクトである。当時小学校の生徒が年々減少しており、小学校の PTA を務めていた保護者など当事者意識を持った 3 人が危機感を覚え、立ち上がったのがはじまりで、地域の住民や移住者、小中高校といった多彩なプレーヤーとともにプロジェクトを展開している。

現在は若い世代から高齢者まで幅広いメンバー 60 人が参加しており、なかでも評価できる点は大きく 3 点挙げられる。

1 点目は、役職に縛られないチームのつくり方である。自然体験や、地域自慢の写真カレンダー&写真展、エコマーケットや工作教室、人材バンクといった 8 つのプロジェクトが立ち上がっているが、「やりたい人がリーダー」との言葉通り、「この指とまれ」方式による、やりたい人がやりたいプロジェクトを楽しんで実践している。そこに集うゆるやかなネットワークが 100 プロを形成している。ヒエラルキー型とは異なるフラット型ともいえる現代らしいチームのつくり方であり、だからこそ無理なく続けることができているのではないかと考えられる。

2 点目は、活動をするに当たって、活動の年間計画をつくっていないことである。それは活動を義務化すると楽しくなくなるからであり、徹底して「やりたい」「楽しい」「ワクワク」の 3 点を大切にしている。そのことによって、新旧のさまざまなプレーヤーとつながり、輪が広がっていている点も興味深い。

3 点目、活動を開始してから 10 年後である 2028 年に活動をいったん区切るとしている点も、重要な視点であると考えられる。10 年という一定の期間を見据えてゴールを区切る方が、しっかりと集中して取り組んでいけるという思いからだという。

以上のチームのつくり方、楽しさを大切にする、ゴールを区切る、この 3 点だけでも持続的に地域で活動を続けていくエッセンスが詰まっていると考えるのではないだろうか。「ワクワクするところに人は集まる」ということを体現している。

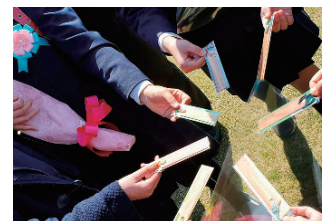
今後のビジョンには、活動を次世代につなげていくためにも「創造家をつくる」と掲げ、人材育成に力を入れることや、夢を堂々と語れる地域づくりを進めるとしている。このビジョンについても、これからの過疎地域を考える上で非常に本質的なあり方を示していると考えられ、評価したい。



結婚・移住・子育て、不安がない人なんていないよね。おいしいご飯を食べて、気軽にしゃべりながら、新たなコミュニティを楽しもう！（写真：女子会プロジェクト）



夏・火起こし、川遊び、ドラム缶風呂&冬・雪遊び。体験して育つ子供たち！（写真：自然体験プロジェクト・火起こし体験）



かつて校庭にあった木を使って「しおり」を製作。地域の卒業生にプレゼント（写真：しおりプロジェクト）

DATA

広島県 北広島町（きたひろしまちよう）

団体名 ▶ 100 プロ
所在地 ▶ 〒731-2102 広島県山県郡北広島町岩戸 1133-1
連絡先 ▶ TEL：070-9005-1634
E-mail：1973ryozan903@gmail.com

【交通のご案内】

自動車 ▶ 浜田自動車道 大朝 IC より約 10 分
鉄 道 ▶ JR 可部線利用
広島駅から可部駅まで約 45 分
可部駅から、車で約 1 時間
飛行機 ▶ 広島空港から車で約 1 時間 30 分

●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
北広島町	35,696	23,743	21,929	19,969	18,918	17,763

●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
北広島町	-50.2	-25.2	-19.0	-11.0	-6.1

（単位：人）

●高齢者・若年者比率（R2 年）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
北広島町	39.12	12.66

（単位：％）



特定非営利活動法人あったかいよう とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに



美しい海や山など海陽町の魅力をたくさんの人に知ってもらうため、新たなガイドツアーを企画し、ツアーガイドを養成する「ガイドインストラクター事業」を実施。

◆事例の概要

平成 27 年度に実施した、地域住民と行政が連携して地域の課題解決について考える『海陽町みらい会議』を前身とし、平成 28 年度に住民たちが、自分たちのみらいをより良いものにするために自主的に立ち上げた団体である。

①にぎわいづくり、②人材育成、③移住者支援が活動のメインの柱であり、①では各種イベントの開催の他に、自然インストラクターの育成や DMV の PR 等に関わっており、②ではひとり親世代向けに料理教室の開催や、外国人技能実習生などを対象とした日本語教室を開催し、地域住民の重要な交流の場となり、③ではお試し住宅の「いもちの家」を運営し、移住希望者に町での暮らしを体験してもらう取組を行っている。

イベント開催からしごとづくり、町の賑わいを伝えるための人材育成、移住や多世代交流の支援まで、地域を元気にするための取組を行っている。



豊かな自然を次世代に伝えるため、地元の学生と海岸清掃（ビーチクリーン）を実施。

◆評価のポイント

NPO 法人あったかいようは、海陽町が地方創生関連で町民に呼び掛けたみらい会議の開催をきっかけに、平成 28 年に設立されたまちづくり団体である。みらい会議では、町民有志 54 名が参加し、ふくし・にぎわい・しごとなど 6 部会で熱心な話し合いが重ねられ、「その実践拠点が必要」という声から NPO が立ち上がった。「とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに」を目指し、海陽町に住む人たちが自分たちのみらいをより良いものにしようと、主に 3 つの柱で活動を進めている。

1 つ目は、多世代交流を意識したにぎわいづくり。文化継承や体験のインストラクターを教育旅行やイベントに提供したり、町内の資源をガイドツアーで巡るプログラムを構築するなど、町内各所に活動が及んでいる。2 つ目は人材育成の場。子どもたち向けの学びや遊びの場づくりや、海ゴミリーダー養成講座を開催してビーチクリーンの活動につなげるなど、大人から子どもまで、まちの中で動ける人々を増やしている。3 つ目は移住者支援。移住相談、町内の空き家調査や片付けサポート、移住お試し住宅の運営など、行政とともに充実した受け入れ体制づくりを進めている。さらに近年では、食品製造・加工企業で働く外国人が増え、町での暮らしに馴染めるように、日本語教室や文化体験、防災講座といった多文化共生の活動にも広がりを見せている。

町内にはボランティア活動の主体も多く、そこに対しても NPO は相互につながって、情報発信やサポート役を担う。加えて、個々のやりたいことを起点として、共感できる仲間と動き出し、それが結果として地域コミュニティの課題解決につながるプロセスが随所に見られている。活動に関わった子どもたちも今では高校生に成長し、年下の子どもの世話にまわる人材還流も起きている。NPO では、「楽しいが一番。遊び心で」「誰かのために、自分のために」をモットーに、40 名あまりの会員が自発的に、自分のできることを実践し、まちの人脈や知恵、知識が共有されるプラットフォームとして、「孤立しにくい」環境をみんなで作ろうとしている。

過疎地域においても、子どもたち、移住者、外国人など地域の多彩な人たちが関わる社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）の場づくりが求められ、そのしなやかな実践として各地に共有できる好例と言える。



移住相談、空き家案内だけでなく、お試し移住施設「いもちの家」を運営。漆喰塗り写真展などを企画し、地域交流の場としても利用している。



世界初の DMV が走る町海陽町として、地域の皆さんと沿線を取り組んだ「穴喰駅フラワーパーク」事業。DMV 始発駅となる「阿波海南文化村」でのワークショップやイベントも開催。



移住してきた外国の方を対象にした、簡単な「日本語教室」を企画し、日本文化に触れながら、地域の人と楽しく交流できる機会を提供している。

DATA

徳島県 海陽町（かいようちょう）

団体名 ▶ NPO 法人 あったかいよう
所在地 ▶ 〒775-0302 徳島県海部郡海陽町奥浦字堤ノ外 32
連絡先 ▶ TEL : 0884-70-1413 FAX : 0884-70-1413
E-mail : support@attakaiyo.org
URL : <http://attakaiyo.org/>

【交通のご案内】

自動車 ▶ 徳島自動車道 徳島 IC から国道 55 号で約 2 時間

鉄 道 ▶ JR 四国牟岐線 各駅停車で阿波海南駅約 2 時間 30 分
（乗り継ぎ時間により、時間は前後します）

飛行機 ▶ 徳島阿波おどりと空港から国道 11 号と国道 55 号を経由し車で約 2 時間

●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
海陽町	19,485	14,397	12,104	10,446	9,283	8,358

（単位：人）

●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
海陽町	-57.1	-41.9	-30.9	-20.0	-10.0

（単位：％）

●高齢者・若年者比率（R2 年）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
海陽町	46.6	6.4

（単位：％）



総務大臣賞 平成2～令和3年度 過疎地域持続的発展優良事例表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成12年度までは国土庁長官賞。平成13年度より総務大臣賞。）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯館村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
平成3年度	宮崎県	南郷村	
	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
平成4年度	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
平成5年度	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
平成6年度	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東栗倉村	
	大分県	天瀬町	
	岐阜県	河合村	
平成7年度	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彰部会	
	高知県	梶原町	
	宮崎県	綾町	
平成8年度	岩手県	滝沢町	
	新潟県	入込瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成9年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成10年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成11年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成12年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	新潟県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成13年度	宮崎県	登米町	
	山梨県	身延町、身延駅前ように人通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成14年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸部
	山梨県		
	島根県		
	大分県		
	山形県	立川町	
平成15年度	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	
	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	
平成16年度	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
	沖縄県	東村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成17年度	北海道	しもかわアイスカントルミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯館村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
平成18年度	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
	福島県	三島町	
平成19年度	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえービー	日田市
	福島県	元気な川内を創る会	川内村
平成20年度	石川県	NPO法人 やすらぎの里 金蔵（かなくら）学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東ふるさとづくり協議会	二本松市
平成21年度	長野県	木曾広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
	北海道	下川町	
	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
平成22年度	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
平成23年度	群馬県	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
	新潟県	株式会社 あいポート仙田	十日町市
平成24年度	愛知県	特定非営利活動法人 てほへ	東栄町
	島根県	津江市	
	徳島県	特定非営利活動法人 グリーンバレー	神山市
	岐阜県	特定非営利活動法人 飛騨小坂 200 滝	下呂市
	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
平成25年度	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 頼娃おこそ会	南九州市
	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
	岡山県	あば村運営協議会	津山市
平成26年度	長崎県	一般社団法人 南島原ひまわり観光協会	南島原市
	青森県	八戸市	
	新潟県	公益社団法人 中越防災推進機構 ムラビト・デザインセンター	長岡市
	奈良県	公益財団法人 吉野川紀の川源流物語	川上村
	岡山県	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
平成27年度	鹿児島県	特定非営利活動法人 Lab 蒲生郷	始良市
	新潟県	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構	十日町市
	岐阜県	郡上町	
	徳島県	丹生谷 清流座	那賀町
	佐賀県	唐津市相知町 藤野集落	唐津市
平成28年度	鹿児島県	日置市高山地区公民館	日置市
	北海道	特定非営利活動法人 上士幌コンシェルジュ	上士幌町
	静岡県	企業組合 くれは	島田市
	広島県	青河自治振興会	三次市
	山口県	周防大島町	
令和元年度	青森県	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
	静岡県	企業組合であい村蔵ら	松崎町
	和歌山県	天野の里づくりの会	かつらぎ町
	鹿児島県	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎町
	新潟県	粟島浦村	粟島浦村
令和2年度	福井県	和泉自治会	大野市
	愛知県	敷島自治区	豊田市
	三重県	特定非営利活動法人 のってこらい	熊野市
	佐賀県	ちやのきエンデュロ実行委員会	佐賀市
	兵庫県	与布土地域自治協議会	朝来市
令和3年度	徳島県	特定非営利活動法人美郷宝さがし探検隊	吉野川市
	高知県	いしはらの里協議会	土佐町

受賞団体一覧（都道府県別）（平成12年度までは国土庁長官賞。平成13年度より総務大臣賞。）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成3年度	置戸町	
	平成4年度	鷹栖町	
	平成5年度	上湧別町	
	平成9年度	新得町	
	平成17年度	しもかわアイスカントルミュージアム実行委員会	下川町
青森県	平成18年度	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	平成22年度	下川町	
	平成30年度	特定非営利活動法人 上士幌コンシェルジュ	上士幌町
	平成28年度	八戸市	
	令和元年度	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
岩手県	平成7年度	滝沢町	
	平成8年度	東和町	
	平成15年度	沢内村	
	平成23年度	葛巻町	
	平成12年度	登米町	
宮城県	平成18年度	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	平成27年度	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	平成4年度	皆瀬村	
	平成10年度	西川町	
	平成14年度	立川町	
山形県	平成2年度	飯館村	
	平成5年度	常葉町	
	平成9年度	昭和村	
	平成11年度	西会津町	
	平成17年度	飯館村	
福島県	平成19年度	三島町	
	平成20年度	元気な川内を創る会	川内村
	平成21年度	特定非営利活動法人 ゆうきの里東ふるさとづくり協議会	二本松市
	平成3年度	川場村	
	平成4年度	上野村	
群馬県	平成24年度	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
	平成14年度	富浦町	
	平成7年度	入込瀬村	
	平成9年度	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	平成13年度	越後田舎体験推進協議会	東頸部
千葉県	平成15年度	山北町	
	平成16年度	高柳町	
	平成18年度	魚沼市	
	平成19年度	高根フロンティアクラブ	朝日村
	平成25年度	株式会社 あいポート仙田	十日町市
新潟県	平成26年度	公益社団法人中越防災推進機構 ムラビト・デザインセンター	長岡市
	平成29年度	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構	十日町市
	令和2年度	粟島浦村	粟島浦村
	平成10年度	山田村	
	平成20年度	NPO法人 やすらぎの里 金蔵（かなくら）学校	輪島市
山形県	平成24年度	株式会社 のろし	津山市
	平成2年度	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	令和2年度	和泉自治会	大野市
	平成8年度	芦安村	
	平成12年度	身延町、身延駅前ように人通り商業協同組合	
長野県	平成13年度	早川町	
	平成2年度	八坂村	
	平成8年度	飯山市	
	平成21年度	木曾広域連合	
	平成6年度	河合村	
岐阜県	平成12年度	明宝村	
	平成26年度	特定非営利活動法人 飛騨小坂 200 滝	下呂市
	平成29年度	郡上町	
	平成11年度	本川根町	
	平成22年度	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
静岡県	平成30年度	企業組合 くれは	島田市
	令和元年度	企業組合であい村蔵ら	松崎町
	平成24年度	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	平成25年度	特定非営利活動法人 てほへ	東栄町
	令和2年度	敷島自治区	豊田市
愛知県	平成26年度	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	令和2年度	特定非営利活動法人 のってこらい	熊野市
	平成5年度	美山町	
	平成12年度	日吉町	
	平成3年度	但東町	
京都府	平成7年度	五色町	
	平成10年度	朝来町	
	平成20年度	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	令和3年度	与布土地域自治協議会	朝来市

都道府県	年度	団体名	市町村等名
奈良県	平成6年度	野迫川村	
	平成19年度	十津川鼓動の会	十津川村
	平成28年度	公益財団法人 吉野川紀の川源流物語	川上村
	平成9年度	清水町	
	平成16年度	中辺路町森林組合	中辺路町
和歌山県	平成21年度	田辺市	
	令和元年度	天野の里づくりの会	かつらぎ町
	平成14年度	智頭町	
	平成3年度	仁多町	
	平成9年度	金城町	
鳥取県	平成13年度	石見町	
	平成20年度	奥出雲町	
	平成23年度	谷自治振興会	飯南町
	平成24年度	邑南町	
	平成25年度	江津市	
島根県	平成26年度	益田市真砂地区	益田市
	平成27年度	雲南市	
	平成5年度	東栗倉村	
	平成27年度	あば村運営協議会	津山市
	平成28年度	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
広島県	平成6年度	三和町	
	平成8年度	高宮町	
	平成30年度	青河自治振興会	三次市
	平成11年度	中国山地県境市町村連絡協議会	
	平成4年度	本郷村	
山口県	平成30年度	周防大島町	
	平成6年度	上勝町・勝浦郡農協上勝彰部会	
	平成17年度	特定非営利活動法人 グリーンバレー	神山市
	平成25年度	丹生谷 清流座	那賀町
	平成29年度	特定非営利活動法人美郷宝さがし探検隊	吉野川市
徳島県	令和3年		
	平成8年度	日吉村	
	平成23年度	株式会社 しまの会社	上島町
	平成2年度	大川村	
	平成6年度	梶原町	
愛媛県	平成11年度	中土佐町	
	平成19年度	森の巣箱運営委員会	津野町
	平成22年度	株式会社 大宮産業	四万十市
	令和3年	いしはらの里協議会	土佐町
	平成4年度	矢部村	
高知県	平成7年度	七山村	
	平成29年度	唐津市相知町 藤野集落	唐津市
	令和2年度	ちやのきエンデュロ 実行委員会	佐賀市
	平成3年度	美津島町	
	平成27年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市
福岡県	平成9年度	東陽村	
	平成17年度	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	平成18年度	財団法人学びやの里	小国町
	平成21年度	水俣市	
	平成22年度	姫島村	
佐賀県	平成5年度	天瀬町	
	平成13年度	久住町	
	平成17年度	大分大山町農業協同組合	日田市
	平成19年度	株式会社つえービー	日田市
	平成2年度	南郷村	
長崎県	平成6年度	綾町	
	平成10年度	椎葉村	
	平成12年度	西米良村	
	平成15年度	諸塚村	
	平成3年度	祁答院町	
熊本県	平成11年度	宮之城町	
	平成29年度	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
	平成26年度	特定非営利活動法人 頼娃おこそ会	南九州市
	平成28年度	特定非営利活動法人 Lab 蒲生郷	始良市
	平成29年度	日置市高山地区公民館	日置市
大分県	令和元年度	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎町
	平成4年度	伊江村	
	平成7年度	竹富町	
	平成10年度	北大東村	
	平成16年度	東村	
沖縄県	平成20年度	伊是名村	

平成3～令和3年度 過疎地域持続的発展優良事列表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成11年度までは全国過疎地域活性化連盟会長賞。平成12年度から令和2年度までは全国過疎地域自立促進連盟会長賞。）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
平成4年度	徳島県	井川町	
	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鶯沢町	
	長野県	開田町	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江室町、土ノ国町、和歌町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	勝浦町	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成17年度	青森県	NPO法人グリーンエネルギー青森	鯉ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	菅爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいばく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠砥地区	
	鹿児島県	山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	くすくベグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり 株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社 萩の会	恵田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO法人 ひっばり U ターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生養振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人 奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄る会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人 なかり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんでこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人 IORI 倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとラングルーブ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成28年度	長野県	特定非営利活動法人 ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人 うちの館	五條市
	和歌山県	真田いこい茶屋	九度山町
平成29年度	福井県	池田町	
	愛知県	一般社団法人 おいでん・さんそん	豊田市
	愛媛県	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
平成30年度	岡山県	中和地域づくり委員会	真庭市
	岡山県	梶並地区活性化推進委員会	美作市
	山口県	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン倶楽部	長門市
	徳島県	四国の秘境 山城・大歩危妖怪村	三好市
	愛媛県	まちづくり学校双海人	伊予市
令和元年度	北海道	夕張市	
	青森県	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
	奈良県	NPO法人五新線再生推進会議	五條市
	奈良県	株式会社黒滝森物語村	黒滝村
	島根県	GOTO ☆ワンハート	江津市
令和2年度	福島県	石川町	
	京都府	NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」	京丹後市
	熊本県	くまもと☆農家ハンター	宇城市
	熊本県	美里フットパス 協会	美里町
令和3年度	北海道	標津町商工会女性部	標津町
	高知県	NPO法人いなかみ	香美市
	福岡県	八女市大瀬区	八女市
	佐賀県	からつ七つの島活性化協議会	唐津市
	宮崎県	渡川いこいの郷加工グループ（渡川マンマ）	美郷町
	沖縄県	特保自治会	宮古島市

受賞団体一覧（都道府県別）（平成11年度までは全国過疎地域活性化連盟会長賞。平成12年度から令和2年度までは全国過疎地域自立促進連盟会長賞。）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成6年度	サンセット王国	羽幌町
	平成8年度	鹿追町	
	平成10年度	新冠町	
	平成11年度	丸瀬布町	
	平成12年度	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江室町、土ノ国町、和歌町
	平成14年度	浜益小劇場	浜益村
	平成15年度	常呂カーリング協会	常呂町
	平成19年度	標津町	
	平成23年度	素敵な過疎づくり 株式会社	厚沢部町
	平成24年度	鹿追町	
	令和元年度	夕張市	
	令和3年度	標津町商工会女性部	標津町
青森県	平成3年度	市浦村	
	平成5年度	稲垣村	
	平成17年度	NPO法人グリーンエネルギー青森	鯉ヶ沢町
	平成20年度	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	令和元年度	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
岩手県	平成4年度	山形村	
	平成5年度	住田町	
	平成10年度	大東町	
宮城県	平成6年度	鶯沢町	
	平成15年度	食の博物館実行委員会	加美町
	平成24年度	NPO法人 ひっばり U ターンネット	丸森町
秋田県	平成9年度	岩城町	
	平成11年度	美郷商工会	
	平成16年度	西木村	
山形県	平成16年度	尾花沢市	
福島県	平成7年度	檜枝岐村	
	平成25年度	会津山都そば協会	喜多方市
	平成27年度	一般社団法人 IORI 倶楽部	三島町
	令和2年度	石川町	石川町
茨城県	平成9年度	美和村	
千葉県	平成10年度	和田町	
富山県	平成5年度	山田村	
石川県	平成6年度	吉野谷村	
	平成7年度	中島町	
	平成9年度	柳田村	
	平成12年度	白峰村	
	平成13年度	珠洲市	
福井県	平成29年度	池田町	
山梨県	平成4年度	小菅村	
長野県	平成3年度	株式会社小川の庄	小川村
	平成6年度	開田町	
	平成7年度	南信濃村	
	平成20年度	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	平成21年度	栄村	
	平成22年度	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	平成28年度	特定非営利活動法人 ふるさと	長野市
岐阜県	平成4年度	白川町	
	平成9年度	馬瀬村	
	平成22年度	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
	平成25年度	特定非営利活動法人 奥矢作森林塾	恵那市
静岡県	平成14年度	妻良観光協会及び子浦観光協会	南伊豆町
	平成28年度	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
愛知県	平成3年度	足助町緑の村協会	
	平成24年度	豊根村	
	平成29年度	一般社団法人 おいでん・さんそん	豊田市
三重県	平成3年度	飯高町	
	平成11年度	宮川村	
	平成26年度	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
滋賀県	平成8年度	朽木村	
京都府	平成17年度	久美浜百珍の会	京丹後市
	令和2年度	NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」	京丹後市
奈良県	平成18年度	菅爾村	
	平成28年度	特定非営利活動法人 うちの館	五條市
	令和元年度	NPO法人五新線再生推進会議	五條市
	令和元年度	株式会社黒滝森物語村	黒滝村

都道府県	年度	団体名	市町村等名
和歌山県	平成14年度	美山村	
	平成28年度	真田いこい茶屋	九度山町
鳥取県	平成13年度	株式会社まちづくり日野	日野町
	平成15年度	日南町	
	平成16年度	佐治村	
島根県	平成8年度	西ノ島町	邑南町
	平成17年度	日南川交流会	
	平成19年度	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	平成23年度	株式会社 萩の会	益田市
	令和元年度	GOTO ☆ワンハート	江津市
岡山県	平成7年度	美甘村	
	平成10年度	加茂川町	
	平成30年度	中和地域づくり委員会	真庭市
	平成30年度	梶並地区活性化推進委員会	美作市
広島県	平成13年度	作木村	
	平成14年度	永野を考える会	神石町
	平成15年度	NPO法人 INE OASA	大朝町
	平成24年度	生養振興会	安芸高田市
	平成27年度	田幸ふるさとラングルーブ	三好市
山口県	平成12年度	豊田町	
	平成18年度	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	平成30年度	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン倶楽部	長門市
徳島県	平成3年度	井川町	
	平成12年度	日和佐町	
	平成15年度	勝浦町	
	平成21年度	美郷商工会	吉野川市
	平成26年度	もんでこい丹生谷運営委員会	那賀町
	平成30年度	四国の秘境 山城・大歩危妖怪村	三好市
香川県	平成5年度	池田町	
	平成27年度	五名活性化協議会	東かがわ市
愛媛県	平成4年度	松野町	
	平成14年度	河辺村	
	平成17年度	宮窪水産研究会	今治市
	平成29年度	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
	平成30年度	まちづくり学校双海人	伊予市
高知県	平成18年度	土佐れいばく農業協同組合	土佐町
	令和3年度	NPO法人いなかみ	香美市
福岡県	平成19年度	添田町観光ガイドボランティア	添田町
	令和3年度	八女市大瀬区	八女市
佐賀県	令和3年度	からつ七つの島活性化協議会	唐津市
長崎県	平成5年度	新魚目町	
	平成7年度	長崎大島醸造株式会社	大島町
	平成8年度	鷹島町	
	平成10年度	高島町	
	平成25年度	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	平成25年度	若松ふるさと塾	新上五島町
熊本県	平成4年度	泉村	
	平成6年度	清和村	
	平成13年度	菅地域振興会	矢部町
	平成25年度	寄る会みなまた	水俣市
	令和2年度	くまもと☆農家ハンター	宇城市
	令和2年度	美里フットパス 協会	美里町
大分県	平成11年度	直入町	
	平成16年度	豊後高田商工会議所	豊後高田市
	平成20年度	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
宮崎県	平成18年度	串間市笠砥地区	
	平成23年度	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
	令和3年度	渡川いこいの郷加工グループ（渡川マンマ）	美郷町
鹿児島県	平成9年度	里村	
	平成18年度	山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
	平成25年度	一般社団法人 なかり生姜山農園	西之表市
	平成27年度	大野地区公民館	垂水市
沖縄県	平成8年度	上野村	
	平成14年度	南大東村	
	平成21年度	くすくベグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
	令和3年度	特保自治会	宮古島市

